特集：豚呼吸器病由来病原菌の薬剤耐性とプラスミド*

Symposium: Drug Resistance and Plasmids of Pathogenic Bacteria Isolated from Pigs with Respiratory Diseases

今回のシンポジウムにあたって

高　橋　　勇（日本獣医畜産大学）

現在のわが国における豚の呼吸器病の主要病原菌である *A. pleuropneumoniae* (Ap) 及び *P. multocida* (Pm) の重要性は，いまさら言うまでもないが，さらに *H. parasuis* (Hps) も最近では問題化している。

本会では，Ap と Pm の2菌種の薬剤感受性に関しては，すでに第7，15，16回のシンポジウムでとりあげており，その要旨は会報の2号（'81)，10号（'88)，11号（'89）に掲載されている。その当時の報告をふり返ってみると，2菌種とも，報告者や地域等による差はあるものの，ほぼ1980年代の中期以降の分離株で耐性菌の増加傾向が認められている。

その後，これら2菌種についての検討が進み，新知見が加えられた。すなわち，Ap に関しては国内各地からの分離株で血清型がかなり多様化してきたこと，また耐性菌の増加が目立つこと，耐性型も複雑化して，これにはプラスミドが関与していることも明らかにされた。さらに Pm に関しても耐性については同様の知見が得られている。また新たに Hps でも耐性菌の出現が明らかにされた。

そこで，今回のシンポジウムでは，これらの3菌種について検討をされている4名の研究者にお願いして，成績の詳細を発表していただき，それらの問題点について討論を行うこととした。

各演者のご協力に厚くお礼を申し上げたい。

---

* 本特集は，1992年4月5日に開催された第19回シンポジウムの講演要旨である。